

自由民権期の「自由教育」論争(上)

—資料註釈—

小林洋文

凡例

- 一、句読点、ルビ、註はすべて筆者(小林)がつけたものである。
- 二、改行した方がわかりやすい場合には、改行した。
- 三、一・二の「月桂新誌」の記事は、復刻月桂新誌刊行会「復刻 月桂新誌」から採録した。三の植木枝盛論文は、坂元忠芳他編集・解説『社会運動と教育』(近代日本教育論集・2) 国土社に収録されているもの、四の中江兆民論文は、松永昌三編集・解説『中江兆民集』(近代日本思想大系・3) 筑摩書房に拠った。

目次

- 一 「月桂新誌」日曜討論会(明治十二年十一月—十一月)
- 二 「月桂新誌」投書(明治十二年十二月—十三年三月)
- 三 植木枝盛(明治十三年十月)
- 四 中江兆民(明治十四年三月)

一 「月桂新誌」日曜討論会

自由教育ト督促教育ト孰カ今日ニ適切ナルヤ

社員太田伯一郎曰 我神州ハ素言詞ノ國ニメ文字ノ國ニ非サルカ故ニ、門閥ノ未タ盛ンナラサル頃ヨリ学文ヲ甚タ貴ハサルノ慣シアリ。故ニ古ヨリ政府モ未タ嘗テ学制ヲ頒布シテ人民ニ就学スルコトヲ勸奨セシ「ナシ。是ヲ以テ都鄙朝野敢テ「丁字モ解セサルノ人比々皆アリ。加^よ之旧幕ノ政略ハ務メテ人民ヲ愚ニセント欲セシカ故ニ大層ナル門閥ト云フ大区域ヲ立タリ。夫レ故ニ田舎杯ニハ大学ノ一冊モ読ミ得ル者ハ寒ニ^り寥々^り暁天ノ星ノ如クテアリシ。然ルニ維新以来旧弊ヲ一洗^しメ明治ノ五年ニ於テ学制ヲ頒タレタルヨリ官頻^りニ督促シテ各人民ヲ勸諭シ大中小ノ学校ヲ興シテ就学セシメタルカ故ニ僅ニ六七年ノ間ナレモ奈何ナル山間僻陬^{へんさう}ト雖モ^も実ニ^も不学ノ戸ナク家ニ不学ノ徒ナキノ今日ニ至ルヲ得タリ。是督促教育ノ我國ニ益アル所以ナリ。看^みヨセルマンノ如キ開化國デスラ未タニ督促教育ヲ以テス。況ンヤ日本ノ学問ハ生レテ漸々六七歳位ノ小兒ニ非スヤ。然ルニ今日ニメ其親^{おや}前ノ官^{かみ}ヲ擢^たハス。独リデ働テ自由ニ飯ヲ喰ト云テモ^も沖^もモ大キクハナレヌナリ。因テ余ハ自由教育ハ今日ニ於テ不穩当ナル者ト思惟ス。

社員藤本磯司曰 教育ヲ放テ人民ノ自由ニ任セ政府ノ敢テ之レニ干渉セザルカ如キ^い実ニ開明ノ美事ニシテ人民ノ幸福安^{やす}クニ^も焉^もヨリ大ナルアランヤ。然リト雖モ事ニ緩急ノ序アリ物ニ前後ノ順アレハ、其前ニスベ

キヲ前ニセス其緩フスヘキヲ緩フセス、英ニ美ナレハ直チニ之ヲ取り、米ニ適スレハ亦之ヲ摸スルカ如キ所謂邯鄲ノ步里婦ノ□、其取ル所ノ長モ却テ害ヲ来サン。之レ尤モ憂慮スヘキ以所ニシテ当局士ノ宜ク注意スヘキ所ナリ。

抑モ学校ハ人民ノ協議ニ依リ各自ノ資本ヲ出シテ子弟ノ為メニ結ヒシ所ニシテ、其性質恰モ会社ニ均シキモノタレハ其人民ノ自随ニ委テ敢テ政府ノ之レカ干渉ヲナサ、ルハ固ヨリ言ヲ俟タスト雖モ、天下ノ事ハ理ノミヲ以テ推スベカラズ。實際如何ト願ミルノミ。欧米諸國ノ如キ其文化夙ニ開ケ人智モ亦從テ上達シ闔國ノ人民教育ノ忽ニスヘカラズ智識ノ養成意ルヘカラサルヲ知ルカ故ニ、政府ノ敢テ之レカ干渉ヲ為サ、ルモ人民競テ学ニ就ク。是ヲ以テ私塾ナリ私校ナリ務メテ人民ノ便宜ニ任スルノミ。我國ノ如キハ然ラス。維新日尚ホ浅ク人民固陋ニシテ未タ開花ニ赴カス、教育ノ急務ニシテ實際緊要闕クヘカラサルモノタルヲ覺ラス旧習ノ脱シ難キ徒ラニ能書摘句ヲ以テ足レリトシ、転新規ヲ喜ハサルハ實ニ今日ノ人民ノ通弊ニシテ之レニ許スニ其教育ヲ自由ニシ私塾ナリ私校ナリ以テ人民ノ便宜ニ任スルト言ハ、壬申煥發ノ大号モ齎ニ画餅ニ属スルノミカ旧時ノ寺子屋手習師匠ノ如キニ至ルヤ照々乎トメ其レ火ヲ見ル如キニアラスヤ。

故ニ余輩ハ以為ラク。縦令ヒ抑遏ニ亘ルモ干渉ニ過クルモ務メテ政府ノ之レカ保護ヲ為シ提撕奨勸片時モ早く開明ノ端緒ニ誘導シ人民ノ漸ク教育ノ貴重ニシテ開智ノ忽諾ニ附スヘカラサルヲ覺ルノ日ニ於テ然ル後米ノ如ク英ノ如ク其教育ヲ放テ人民ノ自随ニ任セ校舍ノ公私ヲ問ハサルガ如クセハ緩急其序ヲ得前後其順ニ順スルニ庶幾シカ。余輩ノ見ル所如何。

社員浅井列曰 該問題甚タ広大ニ素ヨリ一紙半片ノ紙上ニ悉ス能ハサレモ吾輩ハ督促教育ハ大嫌ニシテ自由教育カ大好キ也。併シナガラ吾輩ノ好嫌ハ天性ニ非ス。時トメ好キ時トメ嫌ヒナリ。予カ今大嫌ノ督促教育モ今ヨリ七八年前ニハ大好ナリシ。世人活眼ヲ開イテ我國現時ノ

人民ヲ視察シ退テ英國ノ人民ニ借問セヨ。其字ヲ知ル者ノ我ト彼ト孰カ巨多アルカ。吾輩ノ嘗テ或人ニ聞クル所ニヨレハ彼我比較シテ差引乗除スル片ハ我國ノ英國ヨリ字ヲ知ル者多キ幾シト倍セリト。然ラハ則チ我國ヲ自ラ目シテ無学ノ國ト為スヘカラズ。斯ク無学ノ國ニ非サル由縁ハ佗ニ非ス。昔封建ノ頃ヨリ士族ナル者アリテ禄ヲ上ヨリ授ケラレテ治世ニハ骸ニ困ル程ノ閑人沢山アリシ故ニ士ハ先明テモ暮テモ学文カ第一ノ仕事卒ニハ習ハセヌ杯言フ藩モアリシカ是逆モボツノ何時ノ間ニカ稽古シタリ。是ニ於テカ商ハ注文ノ手紙ニ困リ工ハ帳合ヲ為スニ困リ農ハ庄屋判頭ニ為レヌトテ皆夫レノニ村学校ノ村夫子ニ就テ学シタリ。故ニ天性敏悟ナル者ハ随分大学者ニモナリ大博士ニモナリタリ。斯ク我國ハ昔ヨリ字ヲ知ル者ノ沢山アリシ処ヘ明治五年学制ヲ設ケテ大ニ此道ヲ拓張シタレハ随分國中ニ沢山過ル程ノ学者出キタリ。而シテ我明治五年以來ノ教育法ハ西洋ニ行ハル、真ノ督促教育ト云フニ非ス。真ノ督促教育ナル者ハ就学セサル者ハ代議士トナル能ハス兵籍ニ入ル能ハス何ダノ蚊ダノト罰則ヲ設ケ置者ナリ。是甚タ不自由ナラスヤ。然ルニ前ニ述シ程ノ况概アル。我國ノ教育ヲ此上尚督促ニセント云フカ如キハ大ニ違ヘリ。且又自由教育ト云ヘハ世人ハ些トモ政府ヲハ措テ願サル尚旧幕府時分ノ如シト思ハル、者モアランカ。決シテ然ラス。是ハ英國ノ教育書ヲ見レハ判然スヘシ。

(月桂新誌「第三十号、明治十二・二十」)

社員金井渾曰 余ハ素ヨリ万事万端自由我儘ヲ大好ニテ干渉束縛ハ大嫌ヒナレモ教育計リハ今日テハマダノ督促デナクテハ不都合ナラン。何トナレハ先近ク取り譬ヘバ此頃日本國ハ都トナク鄙トナク新聞雜誌ヤ演舌ヤ討論ヤ著述ヤ中々盛大デアリ升ガ斯ク盛大ナル所以ハ何故ソヤ。作者論者ハ倍々其巧ヲ極メ看官聴者ハ倍々沢山アルニ至レハナリ。此人々皆多クハ維新以來ノ督促教育ノ空氣ニ感動養成セラレタル者ニ非スヤ。且又昨年ヨリ國中県会ヤ村会ヤヲ統々開設スルニ其一会場

中経済学ニ達シタトカ又ハ政事学ニ達シタトカ云フテ真ニ堂々タル一大論議ヲ建ル者ハ精米中糠(15)糶ヨリモ少シ。是ヲシテ皆純然タル代議士諸君ニ任(16)年ヲ出スメ為サンコトヲ庶幾スルニハ督促教育ニ如ク者ハアラサルナリ。

社員三上忠貞曰 吾人ノ見ル所ハ諸君ニ異ナリ自由教育法可ナリ督促教育法亦タ可ナリ。自由、督促ノ二法并セ行ハサル可カラサルナリ。或ル郡ハ自由教育法ニ適シ、或ル郡ハ督促教育法ニ適ス。或ル郡中甲村ハ自由教育法ニ適シ、乙村ハ督促教育法ニ適ス。夫レ人世ハ活機ナリ。人文ノ開否ハ土地ニ依リ異同アリ。故ニ自由督促ノ二法ヲ併行シ、当局者ハ其開否ヲ觀察シ其地其境ニ於テ斟酌スルノミ。夫ノ画一ノ法ヲ以テ都鄙一様ニ施サント欲スル如キハ吾人ノ左袒セサル所ナリ。之ヲ放任シテ顧ミサル如キ、之ニ干渉シテ措カザルガ如キハ變ニ通セサルノ甚シキモノナリ。

記者曰 自由教育ト督促教育トノ主義ヲ以テ之ヲ政治ノ主義ニ譬ヘハ督促ハ猶干渉ノ如ク自由ハ猶任(18)任ノ如シ。夫レ干渉ノ政略ハ野蠻(19)昧ノ人民ニハ其利多シト雖少シク人文ノ開ケシ固ニハ其害亦甚タ多シ。故ニ西洋諸國ノ熟練ナル政治家ハ其人民ノ進歩ニ從ヒ其政略ヲ變更スルニ甚タ巧ミナル恰モ時辰機ノ其時ニ從ツテ其鍼ヲ運ラスニ異ナラス。而シテ人民開化ニ趣クノ基ハ則チ教育ナリ。教育ノ力能ク人民ノ地位ヲ進ム。人民ノ地位能ク政治ノ針路ヲ變ス。政教ハ素是一ナリ。政治干渉主義ノ相当スル人民ニメ未タ嘗テ自由教育ノ相当スル國アルヲ聞カサル也。教育督促主義ノ相当スル國ニメ政治任(17)任主義ニ非スンハ未タ嘗テ統治スル能ハサルノ人民アルヲ聞カサルナリ(日耳曼ノ如キハ分外)。然ラハ則チ政治任(17)任主義ナレハ教育モ亦宜シク自由主義ヲ以テセサルヘカラス。然而今ヤ吾賢明政府ハ其政治ノ針路ヲ以テ既ニ任(17)任ノ主義ニ嚮(18)向セラレタリ。是其人民ノ地位其效ニ達セシ者アレハ也。然ルニ豈独リ教育ノミ仍督促ヲ是レ適切ナリト言フ得ンヤ。是亦宜シク自由ノ主義

ニ變転セサルヘカラサルノ秋ナリ。若シ今日ニシテ自由教育ヲ以テ尚早シト為サハ、国会ハ倍置(19)キ府会モ県会モ区会モ郡会モ町会モ村会モ尚早シト言ハサルヲ得サルナリ。

吾輩唐突此言ヲ吐出シ来レハ、人或ハ目シ 席上論ノ大法螺(20)ナリト非難スル者アルモ知ルヘカラス。因テ余ハ左ニ吾説ノ法螺ニ非ス席上論ニ非スメ実着實際ノ至極正直論ナル所以ヲ証セン。曰ク何ソヤ。本年ニ於テ吾文部太輔田中不二磨君ノ例ニ因リテ分彙編成セラレタル文部省第五報(明治十年分)ノ要ヲ摘メ其大略ヲ掲ケ、以テ我國ノ教育ニ從事スル者ノ夥數キヲ実ニ欧米全土ニ其比ノ稀ナル所以ヲ知シメント欲ス。其略ニ曰ク。去ル明治十年ニ於テ七大学区中小学校ノ數二万五千四百五十九箇、教員ノ數五万九千八百廿五名、生徒ノ數二百六万二千九百六十二名タリ。之ヲ前年(明治九年)ニ比較シ去ルルハ、小学校ノ數ハ公私合セテ五百十二箇ヲ増加シ、教員ノ數ハ男女合セテ七千五百六十三名ヲ増加シ、生徒ノ數ハ男女合セテ九万五千一百六十一名ヲ増加セリ。想フニ佗年今明治十二年ノ報ヲ看ルヲ得ルルハ、必ラス其増加亦之ニ幾倍スルモ凶ラレサルナリ。何トナレハ本年滋賀一県ニ就テ其六歳以上ノ男女ニメ字ヲ知ル者ト知ラサル者トヲ調査セシニ男廿九万九千六百三十九名中其字ヲ知ル者廿六万零七百九十三名(百分ノ八十七余)、女廿九万九千六百三十九名中其字ヲ知ル者十一万六千六百五十五名(百分ノ三十八余)アリシト由。是之ヲ推シ以テ我全國ノ子弟カ教育ニ從事スルノ形況ヲ觀ルニ足ルヘキ也。誰カ我國ヲ目シテ無智文盲ノ未開國ト為スカ。誰カ我教育法ヲ以テ督促干渉ニ非サレハ到底開ケサル者ト為スカ。文部省学制ヲ頒ツ以来僅々五年ニメ此ノ如シ。豈亦十二年ノ今日ヲ以テ尚旧学制ヲ恣ニシテ一層究屈ナル督促法ニ為サント欲スルノ狂論アラシヤ。因テ吾輩ハ前三社員ノ論ヲ駁シテ何処迄モ自由教育ノ今日ニ適切ナルヲ論スルヲ然リ。

註(1)一つの文字。(2)僻地。(3)みだりに自分の本分を忘れて他をまねねば、二者共に失うこと。(4)自由勝手。随意。(5)国中の。(6)古いことに頑固に執着して、新しいものを嫌うこと。(7)文字を巧みに書くこと。(8)文章の中から要点を示した語句を選び出す。(9)明治五年の学制。(10)後進の者を教え導く。(11)おろそかにする。(12)仮に問うこと。(13)下級の士族。(14)職人。(15)同意する。支持する。(16)変通。その時の情勢に応じて、変わることに。(17)編集長の松沢求策。(18)任他。放任。他にゆだねてなるままにまかせる。(19)言うまでもなく。(20)太田伯一郎、藤本蟻(蟻)司、金井輝。

二 「月桂新誌」投書

(1)自由教育ハ今日ニ行フ可ラズ

在北安曇 内山 昇

政治ニアレ教育ニアレ自由ヲ以テ主義トナスハ開明國ノ常ニシテ吾人々民ノ熱望スル所ナリ。然リト雖時未ダ至ラズ。機未ダ熟セサルニ偏ニ理論ノミヲ以テ實際ニ反スル所ヲ行ヒ慣習ノ弊害ヲ矯正セント欲スルハ、其ノ識見狹隘拙劣ニ愚モ亦甚ダシキニアラズヤ。故ニ事々物々理論上ニ於テハ頗ル美ナルモ之ヲ實際ニ返省シテ其ノ適度ヲ得ズンバ、後日ノ弊害真ニ恐ル可キ也。今ヤ我日本帝國ニ於テハ自由教育施行ノ時機已ニ熟セリト為ス乎、又之ヲ實際ニ返省シテ果シテ其ノ適當ヲ得ルト為ス乎。其レ此ノ問題ニ就テハ世人ガ喋々嘖々論弁ヲ為スト雖モ、之ヲ要スルニ目下教育ニ直接ノ責任ヲ負フ者ハ其ノ機未熟セズシテ其ノ實際ニ適セサルヲ覚知スルナラン。抑吾儂ハ自由教育論者ノ反対点ニシテ、督促教育ハ人権ヲ妨害スルガ如クナレトモ、今日ニ廢ス可ラザル緊要法ト信認ス。回顧スレバ我政府ハ已ニ明治五年ノ八月ヲ以テ学制ヲ頒布シ天下人民ニ令シテ学校ヲ設立セシメ爾來督促提撕懇々勸奨シテ今日ノ文運旺盛ヲ見ルト雖、如何セン地方人民カ猶旧時ノ寺子屋ヲ慕ヒ窃ニ之レニ児童ヲ托シテ資金ヲ拒ム輩アリト聞ク。其レ是ノ如シ。假令日本人ガ英

國人民ヨリ文字ヲ知ル者多ク又年々就學生ノ増加ヲ呈スルモ固ト之レ人民ノ熱心勉強ニ出ルトハ云へ抑又地方学務官ノ十二分ニ督促ヲ要セザレバ豈ニ能ク之ヲ致スヲ得ン哉。何トナレバ日本人民ハ自進自取ノ氣力ニ乏シク万事万端他ニ依頼スルノ短所アルヲ以テ也。之レニ反シテ欧米人民ハ特行独歩ノ美力ヲ有シ吾人同胞ノ如キ無氣力人ニアラザルヲ以テ彼ノ英國ノ如キハ其ノ無學者我ヨリ夥多ナリト雖、国運隆盛ニ其ノ□明万国ニ冠タルニアラズヤ。噫世ノ洋醉論者カ妄リニ英米ニ適切ナル法方ヲ羨ミ直ニ之ヲ取ツテ実行セント欲スルモ、彼レニ適スル者ハ我ニ適セザルアルハ事物ノ常理ナレバ、日本ノ教育ハ日本人民ノ実力ニ適セザレバ不可ナル可シ。若シ其レ忽然今日ニ於テ自由教育ヲ行フアラバ公立学校ハ日ニ月ニ減少シテ私立学校ノ益多々ナルヲ見ン。然ラバ則チ旧時ノ寺子屋師匠ガ再現モ計リ難ク從來地方学務官ガ折角ノ督促モ徒勞ニ帰シテ水上ノ泡ト変ゼン。試ミニ鑑大ノ活眼ヲ開廢否ナ細小ノ死眼ヲ以テスルモ明ナリシヲ長野縣以來南部四郡ノ教育ノ狀況ヲ見ヨ。其ノ日ヲ聞スル僅ニ茲ニ三年余ニ過ギザルモ、学事次第ニ衰運ヲ來タシ吾儂モ諸君モ其ニ慨歎スル所ナラズヤ。謂フニ先キニ永山君ノ鼓舞勸奨孜孜々々督促セラレシニヨルト雖今ヤ賢明樞府君ノ治下トナリ勸奨督促ヲ怠ニハアラザル可ケレトモ幾分カ放任シテ他日自由教育ノ楷梯タラシメント深慮セラレシニヤ否ヤ。人民ノ盛氣ハ頓ニ消□シテ今日ノ有様トハナリタリ。其レ然リ殷鑑是ノ如シ。此ノ上自由教育ヲ行フアラバ我南部ノ如キハ其ノ衰頹陵遲スル所又何如ヲ知ラザルナリ。止ダ独リ我南部ノミナラズ日本帝國ノ教育ハ其ノ適度ヲ失ヒ中途ニ委靡シテ所謂腰折ノ歎息ヲ發スルニ至ル可キハ吾儂ノ贅言ヲ待タザルモ照々乎トシテ其レ明ナルガ如シ。嗚乎自由教育論ハ其論頗ル美ナリト雖、此說ヤ實際ニ暗ク理論ニ走り過ギタル言ナレバ到底言フ可クシテ行フ可ラザルノ事ノミ、否ナ行フテ行ハレザルニハアラザレトモ行ッテ有害無益ナレバ寧ロ行ハサルノ勝レルニ加カス。豈又謬見ノ甚シキ物ニアラスヤ。然リト雖、吾儂ハ長ク督促教育ヲ

督責ニ依テ生徒ヲ就学簿上ニ多カラシメ、彼ノ仏巴黎ノ万国博覧会ニ於テ美名ヲ東方ニ擲ニセシ如キ虚栄ヲ博セント欲スルニ過ギズ。其意深ク尤ムルニ足ラザル也。〔畢〕

〔月桂新誌〕第四十二号、明治十三・一・十一、投書

註(1)結局。最後には。(2)仲間どうしでひいきをする。(3)目的をとげるためにとる。不正の(便宜の)手段。(4)餓死した人。(5)飢えて、青菜のように血色が悪いこと。(6)身分・地位・能力の程度。(7)おさない子。(8)極負。帯ひもで幼児を背負う。(9)心がかたよりひがむこと。(10)被誘。たすけ導く。(11)気がひけて心が縮まる。

(3) 近江富士之助氏ニ答フ

内山 昇

陽公茲ニ新ニ明治ノ已卯巳ニ去ッテ早ヤ庚辰ノ人トナリ東ニ奔リ西ニ馳セテ新年ノ祝辞ヲ呈シ炉ヲ擁シテ賓客ノ万来ヲ待シニ、来レリ来レリ、(颯々々々)々々滋賀県平民近江富士之助ノ入来否ナ馳書ノ惠投ヲ得、燕舞雀躍披ヒテ之ヲ閱スレバ吾ガ儂客歳月桂新誌ニ投ゼン所論ノ駁撃ニシテ厚意懇願ル吾儂ノ満足ヲ得ルト雖モ、其ノ立論ノ要点ニ至ッテハ不満不足、恐クハ吾儂ニ党スル者ノ惑ヲ解クニ足ラザル也。夫レ近江氏ハ自由ヲ好ム者ナリ。干涉督促ヲ嫌フ者ナリ。其ノ自由ヲ好ミ干涉督促ヲ嫌ウノ一点ニ至ッテハ吾儂更ニ一口ノ異議ナク滋賀県平民モ長野県平民モ蓋シ同一主義ナリ。然リト雖、近江氏カ機ヲ見ズ時ヲ察セス叨リニ自由教育ヲ唱フルハ、之レ其ノ識見狹隘ノ致ス所カ。蓋シ氏ハ欧米各国ノ自由教育ヲ羨慕シ時機ハトモアレ自由ガ正理ナリ公道ナリト喋々スル洋僻者流ノ一人ニシテ、日本今日督促教育ノ未可廃ノ一端ヲ舐ッテ全壁ノ真味ヲ味ハザル輕躁者ナリ。日本教育ノ腰折トナランコトヲ希望シテ措カザル者ナリ。吾儂如何ンゾ。論旨ヲ弁明シ併セテ氏ガ駁撃ニ答ヘザルヲ得ンヤ。

抑日本人ハ進取活発ノ氣象ニ欠乏シ漫リニ他人ニ委頼スルノ念慮ハ骨髓ニ粘着シ、貴重ノ教育ヲ輕易ニ附シ、重大ノ学校ヲ無用ノ贅物ト同視

スル者多ク、殊ニ従来教則ノ高尚ニ走り生徒ノ日常ニ迂濶ナルヲ以テ種々ノ苦情ヲ生シ、今日ノ如ク教育艱難ノ時勢トハナリタリ。此時ニ当テ当路者カ督促ヲ怠ラハ倍々委靡シテ不振千万東西ニ南北ニ嘆息ノ声アルニ至ル可シ。況ンヤ俄然督促ヲ廢シテ自由ノ教育トナサハ頓ニ腰折レンテ之ヲ恢復スル亦豈容易ノ事ナランヤ。加カス以前ノ督促法ヲ以テ猶茲ニ数年ノ星霜ヲ経過シ行ク時ハ、町村会モ已ニ其端緒ヲ開キシテ、以テ人民進取ノ氣力ハ一年ニ増加シ、生徒ノ学力ハ益進歩シテ、頑固者モ学校ノ功德ヲ覺悟シ苦情者モ欣々然トシテ歎声ヲ發シ、学校ノ功德ハ大無限ナリ、教育ハ人世ノ要具、豈ニ忽緒ニス可ンヤト云フ程ニ至ラサルモ、学校ヲ以テ無用ノ戲場トナスモノナク、相ヒ競フテ生徒ヲ登校セシムル時ニ際シ、自由教育ヲ行ハム、何ンゾ腰折ノ不具者トナルニ至ランヤ、何ンゾ恢復ノ手間ヲ要センヤ。此レ吾儂カ今日ニ自由教育ヲ行フヲ欲セス、次手ニ尚數年間督促教育ヲ施行シ、然ル後ニ自由教育トナスモ未タ晩シトナサムル所ノ一班ナリ。

近江氏ハ吾儂カ私立学校ノ増加ヲ憂シテ難シト曰ク。公立学校ノ減少スルハ開明ノ徵效ニシテ私立学校ノ盛大ナルハ文化ノ萌芽ニアラスヤト。其レ然リ。然リト雖、我国目下ノ形勢ニ於テ自由教育ヲ施行セハ、公立学校ハ一時ニ變シテ私立学校トナルナラン。而シテ其ノ私立小学校ナル者ハ、面向キハ実ニ町村人民ノ公益タルカ如ク、内実ハ旧時ノ寺子屋師匠ニ一歩ヲ譲ラサル程ノ学校ナラサルヲ得サル也。真ニ町村人民ノ公益タルカ如キ私立小学校ハ其ノ設立旣天ノ星モ密ナラサル可ク、早晚世人ヲシテ私立学校ノ増加ヲ愁ヘシムル時アル可シ。吾儂若何ンゾ堂々タル私立学校ノ設立ヲ憂フル者ナランヤ。

近江氏ハ督促教育トハ官吏ノ威權ヲ以テ人民ヲ恐嚇シ若シモ其命ニ從ハザレハ犯罪者ト同視シ圧制強迫スル事ナリト誤想像アリシニ相違ナン。何ンゾヤ。氏ノ説ニ曰ク。元資金ハ一ノ新稅タルカ故ニ、学校ノ為ニ道ニ餓拳ノ横タハリ、家ニ菜色ノ民アルニ至ルト。又曰ク。貧民ノ子弟カ家

ニアレハ父兄ノ勞力ヲ補助スルト雖、強テ出校セシムレハ学校ノ為ニ饑渴ニ迫ル可キナリト。夫レ督促教育ハ恐嚇法ヲ以テ餓拳饑渴ノ人民ヲ製造スルノ法ニアラザルナリ。氏言ハスヤ。費用金ハ地価戸数分限ニ賦課スト。然ラハ則チ假令ヒ一ノ新税タリト雖モ各戸ノ分相応ニ出ス者ナレハ、學資金ノ為ニ身代限りノ処分ヲ受ケン者内外今古ニ聞カサル所ナリ。況ンヤ餓拳菜色ノ民アルト云フニ於テヤ。且又、貧民ノ子弟ヲ強ヒテ出校セシメ之ヲシテ餓渴ニ陥ラシムルガ如キ慘酷ナル官吏アランヤ。氏識ラサルカ。政府ガ督促教育ヲ施スモ人民ノ開智達識ヲ熱望セラレシ者ニシテ之ヲ餓拳饑渴ノ鬼界ニ溺レシメント欲セバ、何ゾ面倒ナル教育ヲ施スニ及バンヤ。

近江氏曰ク、人民ノ進取ニ乏シキヲ知ラズ之ヲ矯正云々ト。是ニ由テ之ヲ觀レバ近江氏ハ督促教育ヲ施セバ人民進取ノ氣象ヲ失ヒ益卑屈ニ陥溺スル者ナリト思想スルガ如シ。是ヲ之レ僻見ト言ハズシテ豈又何ヲカ謂ハヤ。假令美名大功ナル自由教育ヲ施スモ頓ニ腰折シテ萎靡衰退セバ人民ノ不羈獨立ヲ養生スルノ補助ヲ失フモノミ。必竟人民ヲシテ進取活発ノ氣象ヲ生ゼシメ早ク不羈獨立ノ人タラシメンニハ、假令督促法ナリト雖教育ヲ盛大ニセザル可ラズ。抑人民ノ氣力ハ督促教育ノ為ニ消失スル者ニアラズ。政府ガ言論ノ自由ヲ箝制シ國民ヲ政治範圍ニ逍遙センメザルノ醜結果ニシテ今日日本人民ガ是ノ如ク無氣力ナルハ封建時代压制氣風ノ未ダ脱却セシテ腦裏ニ殘留セシガ故ナラズヤ。吾儕逆撃ノ簡条独リ茲ニ止マラズト雖、余ハ小節支葉ニ属スルヲ以テ暫ク之ヲ怒シ唯其ノ大綱目ヲ駁スルヤ然リ。

〔月桂新誌〕第四十六号、明治十三・二・一、投書

註(1) 餓え死にした人。(2) 飢えた顔色。(3) 束縛して自由にさせない。

(4) 内山昇、近江富士之助両大将ノ戦争ヲ觀テ感アリ

在北安疊 横鎗次郎

東セント欲スル者アレバ西セント欲スルモノアリ。南セント云ヘバ北セント云フ者アリ。自由ヲ主張スルモノアレバ督責ヲ唱フルモノアリ。督責ヲ厭嫌スル者アレバ自由ヲ拒ムモノアリ。茲ニ於テカ論点全ク相反シ、甲論スレバ乙駁シ、乙説ケハ甲撃テ、一論一撃、一説一駁、筆說縦横吹々喧々論議錯乱、殆ド是非ヲ判スルニ困ム。此頃月桂新誌ヲ通読スルニ、看タリ看タリ。投書欄内ニ於テ一局ノ戰場ヲ開キ相撃相防一生一死奮戦格闘ソノ状恰モ陰雲昏黒ニシテ天日ヲ覆ヒ鷓鳳混淆豺鱗雜沓スルガ如シ。然リ而シテテコノ戦争ノ基源トソノ大将ヲ尋ヌルニ、自由教育督責教育云々ノ大事件ニシテ、甲ノ大将ハ当県下北安疊郡ナル異男子内山昇ソノ人ニシテ、乙ノ大将ハ滋賀県ナル威男子三上山ノ近江富士之助ソノ人ニアラズヤ。然リ而シテソノ論点ノ偏向スル処ヲ察スルニ、甲ノ大将ハ無暗ニ東セント云ヒ、乙ノ大将ハ矢鱈ニ西セント云ヒ、乙ノ大将南ト云ヘバ甲ノ大将ハ北ト云ヒ、甲ノ大将督責ヲ唱フレハ、乙ノ大将自由ヲ主張シ、水火相容ラレスシテ、遂ニ今日ノ戦争ヲ引キ興スコトハナレリ。嗚呼世人ハコノ戦争ヲ觀テ孰カ曲孰カ直、誰カ勝テ誰カ斃ルムト思フヤ。甲ハ督責ノ堅城ヲ築テ自由ノ銳鋒ヲ防キ、乙ハ自由ノ銳鋒ヲ磨シテ督責ノ堅城ニ当ル。吾暫ハ以謂ラク。二將皆是ニアラサル也。而メ二將共ニ斃レント乞フ。コレヲ左ニ陳述セン。夫督責ノ城堡ハ数年前ニアリテハ尤堅カリシカモ、漸ク今日ニ至テハ已ニ堅カラス。而メ自由ノ鋒劍ハ欧米二三ヶ国ニ於テハ甚タ鋭シト雖、吾邦ニ於テハ未タ鋭トナサズ。鋭トキモノヲ以テ堅カラザルモノヲ衝ケハ必ス勝テ、堅キモノヲ以テ鋭トカラザルモノヲ防ケハ何ソ敗ルムトアラン。堅カラザルモノニ当ルコト五分五分ノ戦ナリ。孰レノ日カヨク決セン。故ニ曰。二將皆是ニアラザルナリ。而メ二將共ニ斃レント。夫督責ノ城堡ハ学校創立以來多年用ヒ来リテ今日ニ至リテハ已ニ朽チタリ。亦用ユベカラス。自由ノ鋒劍ハ未タ能ク鍛鍊セズ。若シ今日ニ用井ハ恐ラクハ碎折セン。已ニ朽チタルモノハ亦用ユベカラス。未タ鍛鍊セザルモノモ亦用ユベカラス。嗚呼今

日ハ至難ノ秋ナリ。如何ナルモノヲ用ヒテ可ナルカ。殆ト当惑ノ至也。

注(1)くどくどいう。(2)おしのける。

〔月桂新誌〕第五十三号、明治十三・三・六、投書

コレ復ニ大将ノ立論区々トシテ相合ハザル所以雖、然以上ノ論説ハ所謂一東東ネノ論ニシテ小分シタルノ論ニ非ラザルナリ。コレヲ小分シテ該地該民ニ適応スルモノヲ以テコレヲ用ユルハ今日ノ得策ナリ。前条ニ於テ督責ノ城堡ハ朽タリト論セシハ是レ概論ナリ。自由ノ鋒劍ハ未タ鍛鍊セスト云フモ亦概言ノミ。既ニ朽チタル処アリト雖、未タ朽チザル処アリ。未タ鍛鍊セスト雖、既ニ鍛鍊セシ処アリ。故ニ既ニ朽チタル所ハコレヲ用ユベカラズト雖、未タ朽チザル処ハ必スコレヲ用ユヘシ。用ヒテ大ニ用ヲナスヘシ。已ニ鍛鍊セシ処ハソレコレヲ用ユヘシ。用井テ必ス大効アリ。未タ鍛鍊セザル処ハ漸ク鍛鍊シテ以テ後日ノ用ニ供スベシ。安ソノ一挙ニシテ完全無欠ノ成效ヲ見ルヲ得ンヤ。凡事ヲ議スルモノ徒ニ眼前ノ実況ヲ見テ天下ノ大勢皆如斯ト思フハ所謂偏見ニシテ大ナル誤リナリ。而メ両大将ノ立論亦偏見ノ誘リヲ免レサルナリ。乞フ両大将ヲ、活眼ヲ開テヨク／＼四隅ヲ看一看シ沈黙考セヨ。大ニ両大将ノ見ル処ト異ナルモノアラン。此地ノ人民智識開進シテ大ニ自進自取ノ氣象ヲ發シタルモ、彼ノ地ノ人民ハ智識未タ開ケス、依然旧慣守株ノ愚民ニシテ一ニモ官ノ力ニモ官ノ力ニアラスンハ如何トモスル能ハザルモノアリ。コレ今日世界ノ情態ナリ。然ルヲ甲ノ大将ハ己レノ居ル処ト己ノ欲スル処トニノミ就テ立論シテ曰。自由教育ハ今日ニ行フベカラズ。尙五六年ノ間ハ督責教育ニアラズンバ不可ナリ杯ト云フハ大ナル偏見ニシテ又深く責ムルニ足ラザルノ論者ナリ。又乙ノ大将モ己ノ見聞ト己ノ好ム処ニ付テ矢鱈ニ督責ヲ擯斥シテ自由ニアラスンハ不可ナリ。自由ハ天下ノ公法ナリ正道ト主張スレモ亦偏見ノ誘リヲ免レ得サル也。予ハ両大将ノ如ク一攫ニ自由ハ宜シ督責ハ非ナリ、督責ハ宜シ自由ハ是ニアラザルナリト云フ論ハ欲セザルナリ。予ハ唯分折法ヲ用井テ自由ナリ督責ナリ該地該民ニ適応スルノ教育ヲ施サンヲ欲スルナリ。江湖ノ諸君以テ如何トナス。

三 植木枝盛

教育ハ自由ニセサル可カラズ

歐洲各邦ノ今日如彼開明ヲ致セシ所以ノモノハ、各種ノ主義混淆シテ互ニ相軋轢シ相凌駕シ、以テ一主義ノ社会ニ全勝ヲ奏セサリシニ因シ、亞細亞各邦ノ開明ハ、遠ク歐洲ノ以前ニ在リシモ、漸々退歩シテ遂ニ今日ノ状態ヲ呈出セシハ畢竟一主義ノ社会ニ全勝ヲ得テ他ノ主義ヲ煙滅セシニ由ルトハ、今日歐米ノ学者ガ揚々乎トメ常ニ躬ラ誇示スル所ナリ。故ニ一國ノ開明ヲシテ愈々進歩セシメント欲セハ、宜ク先ツ各種ノ元素ヲ養成セサル可ラス。我文部省ハ曩ニ教育令ヲ發シ一定ノ普通教育ヲ頒布シ文部ノ吏員ヲ各地ニ派遣シテ之ヲ督責セシメタリ。於此乎全國翕然トメ文部ノ学制ニ循ヒ以テ其教育ヲ施行セシト雖モ、各地自カラ人情風俗等ヲ異ニスルヲ以テ往々實際ニ適切ナラス。是ヲ以テ全國ノ輿論ハ一定ノ学制ヲ以テ督責教育ヲ施行スルノ不可ナルヲ鳴ラシ、以テ之ヲ排撃シタリ。故ニ我文部省ハ昨十二年更ニ教育令ヲ發シテ自由教育ヲ頒布シ、其教科書ノ如キハ各地方ノ適宜ニ任スルコトセリ。是レ寔ニ至當ノコトニシテ、独リ我儕ノミナラス當時全國ノ輿論ハ威ナ之ヲ贊成シタリキ。我邦ハ封建ノ時世ヨリ教育ノ主義ハ異ナリト雖モ、學事ニ心ヲ委セシ者尠カラズ。即チ中等以上ノ者ニ在テハ大概普通ノ漢籍ハ通読セサルハ莫ク、中等以下ノ者ニ在テハ夫ノ寺小屋ナルモノニ由テ以テ手紙往復ノ如キ日用ノ便ハ之ヲ欲ク者甚タ少シ。故ニ我邦ハ西洋各邦ノ如ク博學多識ノ士ニ乏シト雖モ、亦無智文盲ノ痴漢少キナリ。仍ホ之ヲ再言スレハ、智識ノ蓄積ニ乏シト雖モ智識ノ普及ニ富ムモノナリ。智識普及ノ点ニ至テハ實ニ歐洲各邦中ノ右ニ出ルモノアラン。既ニ智識ノ普及ニ富

ム、豈マタ督責教育ヲ以テ此人心ヲ束縛ス可ケン哉。

今又一歩ヲ進メテ之ヲ論スレハ、元來文部ナル者ハ教部ニ亞クモノニシテ一國政治中ニ於テ甚タ緊要ナルモノニ非ス。人智漸ク上進スレハ文部ハ速ク其区域ヲ縮小スルモノナリ。故ニ英米ノ如キ開明國ハ既ニ文部ヲ一省ニ立テス之ヲ内務ノ管轄ニ委セリ。仏國ハ尚文部省ヲ置クモ其長官ハ他省ヲ兼任セリ。到底文部ハ社会成立シテ最後ニ起リ最早ニ其手ヲ引クモノナリ。我邦ノ如キハ前ニモ述ル如ク既ニ智識ノ普及ニ富ム者ナレハ今又一定ノ学制ヲ設ケテ普通教育ヲ督責スルハ最モ其當ヲ得サルモノナリ。況ンヤ実地ノ經驗ニ於テ既ニ業ニ其不可ナルヲ知ルニ於テヲヤ。且夫レ一定ノ学制ヲ布テ國民一樣ニ教育セントスルハ、結局行ハレサルノミナラス、設ヒ実行セラルトモ所謂一主義ヲ國中ニ弘布スルモノニシテ、國家開明ノ最モ害トスル所ナリ。全國民ヲシテ一樣ノ精神ニ養成セシメント欲セハ、則チ浴衣ノ揃テモヨシ裸ノ揃テモヨシ齋シク是レ一樣ナリ一体ナリ唯有形無形ノ差アルノミ。豈國民ヲシテ如此操人形ニ為ス可ケン哉。宜ク精神ノ異同ヲ養成シテ、以テ獨立ノ氣象ヲ煥發ス可キ也。夫レ田舎ノ尿管樋ヲ荷フ者ニ地動毬ノ如キ外國ノ山川ノ如キ全縁故ナキモノヲ教授スルハ実ニ迂遠ノ極ト謂フ可シ。又校舎ノ建築ノ如キ倭家陋屋ノ中ニ階々層々トメ白壁作ノ雲間ニ聳ユルカ如キハ最モ不似合ノ甚シキモノナリ。之ヲ譬ヘハ蔣絵ノ重箱中ニ黒餡ノ牡丹餅ヲ結込シカ如ク其蓋ヲ開カハ一樣一体ノ黒丸子ヲ見ルノミ。此ノ如キハ寧ロ窮家ノ寺小屋ニ各種ノ元素ヲ養成スルノ優レルニ如カサルナリ。是レ豈輿論ノ曩ニ一定ノ督責教育ヲ非トシテ今日ノ自由教育ヲ提出セシ所以ニ非サルヲ得ンヤ。

今ヤ我邦内閣ノ更迭ヨリ河埜君ハ文部ノ卿ト為ラレ、爾來頻リニ自由教育ヲ非トシ干涉教育ヲ以テ督責教育ヲ主張セラルト。吾儕嘗テ之ヲ聞ク、君ハ其先元老院幹事タリシ時専ラ自由改進ヲ主唱セラレシ人ナリト。而メ今又此報ヲ聞ク。何ソ前後矛盾スルノ甚シキヤ。吁河埜君ニシ

テ此事アル吾儕ノ最モ解セサル所ナリ。故ニ吾儕ハ固ク信ス、其道略伝フル所ノモノハ全ク訛伝ニ屬ス可キヲ。然レモ若シ之ヲシテ果シテ実説タラシメハ決シテ専制ノ分子ヲ全国ニ布及シ以テ國民ヲシテ揃ノ浴衣ヲ着セシメルカ如キ一樣一体ノ精神ヲ養成スルモノニ非スシテ、唯學事ヲ振興スルノ一点ニノミ在ル可キヲ。果シテ然ラハ吾儕ハ深ク企望ス。普通教育ノ如キハ可成的各地方ノ適宜ニ任セ、國家ノ元氣ヲ養成ス可キ高尚ノ學文ヲ奨励セラレンコトヲ。我邦今日欠点トスル所ノモノハ智識ノ普及ヨリモ寧ロ智識ノ蓄積ナリ、高尚ノ學文ナリ、操人形ノ如キ者ヲ養成ス可キ時ニ非サル也。世ノ教育家モ亦宜ク茲ニ鑿ミサル可カラサル也。

(愛國新誌)第十号、明治十三年十月二十二日

註(1)一八五七—九二年(安政四—明治二十五)。自由民権運動の指導者。土佐藩出身。(2)軋轢にあつれき。内部の者同士が争いあうこと。(3)結局。

(4)煙のように消えてなくなる。(5)一致して。(6)一八七九年(明治十

二)九月二十九日公布。いわゆる「自由教育令」。(7)たとい設令。

(8)違い。(9)河野敏鎌(こうの・とがま)。一八四四—九五五年(弘化—

明治二十八)。土佐藩出身。文部卿として明治十三年二月から同十四年四月ま

で在任し、その間「自由教育令」を改正し、教育行政の中央統制と地方官の権

限強化を行なった。(10)まちがった伝え。(11)愛國社機関紙。

四 中江兆民

干涉教育

行ク者ハ坐スル者ニ非ルナリ、黙スル者ハ語ル者ニ非ルナリ、語ルノ黙スルト坐スルノ行クト正ニ相反スル者ナリ、若シ行ク者ニシテ坐スルヲ責フト説キ、黙スル者ニシテ語ルニ如カズト曰ハズ、人誰カ之ヲ怪マザル者アラン。

我社自由ヲ以テ自ラ命ズ、而シテ干涉ノ二字ヲ掲ゲ出ス、豈此ト相類スル無キヲ得ン乎。曰ク否然ラズ、物ノ齊シカラザルハ物ノ情ニシテ、事ニハ各其宜アリ、事ニ因リ宜ヲ制スル、是レ之ヲ義ト謂ヒ、物ニ応ジテ

其情ヲ達スル、亦自由ノ方ト為ス、自由固ヨリ干涉ヲ屑ちぢシトスル者ニ非ズ、然レドモ物ニ干涉ヲ待タザレバ其自由ヲ全フスルヲ得ザル者アリ、若シ此物ニシテ干涉セザレバ則チ畜ニ其物ヲシテ自由ヲ得ザラシムルノミナラズ、亦我自由ヲ全フスルヲ得ザルコトアルナリ、故ニ干涉シテ之レヲ済ス、是レ之ヲ干涉モ亦自由ヲ求ルノ道ナリト謂フ、豈ニ不可ナラシ乎。

茲ニ病者アリ、他ニ任セテ救薬セズ、此ニ狂人アリ、他ニ任セテ保護セザレバ、其狂人病者ノ終ニ自由ヲ得ザルハ固ヨリ論ヲ俟タズ、而シテ之ヲ救薬保護セザル者モ、亦傷害ヲ其身ノ自由ニ受ルコト必セリ、此レ則チ干涉セザルヲ得ザル者ニ非ズヤ、教育ノ子女ニ於ル奚ソゾ此ニ異ナラシ。

夫レ人々天賦ノ自由アリ、自由誠ニ天賦ナリ、然レドモ之レヲ培養セザレバ決シテ自由彼レ自ラ能ク暢達ちやうたつスル者ニハ非ザルナリ。

世ヲシテ草昧そうまいナラシメンカ、國ヲシテ野蠻ナラシメンカ、道ナク教ナキモ亦可ナラン。然レドモ世既ニ草昧ニ非ズ、國已ニ野蠻ニ非ズ、則チ身ヲ修メ世ニ処スルノ道講セザル可ラズ、百工芸術ノ事究メザル可カラズ、飽食暖衣逸居いづまゐシテ教ナキハ禽獸きんじゆうナリ。況ンヤ今日ノ世苟クモ此講究ニシテ之ヲ怠ルトキハ、衣食モ亦タ得易スカラザルニ於テヤ、故ニ父兄タル者ハ能ク其子弟ニ干涉シ、之レヲ幼稚ノ時ニ講究セシム可シ、若シ父兄ニシテ此教育ヲ怠ルトキハ、政府宜ク其父兄ニ干涉シ以テ其講究ヲ成サシムベシ。

自由ハ天ノ賦スル所ナリ、而ルニ父母其教育ヲ懈おろそリテ其子ニ自由ヲ得セシメザレバ、是レ父母其子ノ權利ヲ剝奪スルナリ、父母尊シト雖モ豈ニ此剝奪ノ權利アラナヤ。

且ツ教育ノ心神ニ於ケル猶ホ飲食ノ身体ニ於ケルガゴトシ、一日飲食ヲ廢スレバ忽たちまチ身体ヲ衰弱ス、以テ幼年教育ヲ怠レバ其心神ノ靈智ヲ耗損スルヲ知ベキナリ。父母ノ子ヲ食養スルハ其情ナリ、其義務ナリ、之レ

ヲ教育スルモ亦タ豈ニ独リ然ラザランヤ。茲ニ人アリ其子ノ飲食ヲ廢シ、恬てんトシテ其餓死ヲ顧ミザラバ、人必ズ以テ不慈無道ノ親ト為ム、而シテ教育ノ滋養ヲ与ヘズ、其心神ヲ餓死セシムル者ニ至リテハ、未ダ其ノ不慈無道タルヲ知ラザル者アリ、亦タ怪事ナラズヤ、途ニ飢タル者アレバ官必ズ其籍ヲ問ヒ、其父母親族ニ責付シテ収養セシム、若シ父母モ無ク親族モ無キトキハ官乃チ之ヲ救フ、教育ノ餓死がうじヲ救フモ亦タ当サニ此ノ若クナルベカラザランヤ。

凡ソ人ノ窮困餓餓ヲ見テ之ヲ救フ恤きようれスルハ是レ社会ノ義務ナル而已、啻ニ人ニ対スルノ義務ノミナラズシテ、又タ我ガ權利ヲ衛ルノ道、即チ自己分内ノ事ナル而已。

夫レ家ニ無教ノ子アルトキハ其父母兄弟必ズ其害ヲ受ク、邑ニ無教ノ人アレバ其ノ隣比閭りひ里必ズ其害ヲ受ク、郡ニ州ニ皆ナ然ラザルナシ、故ニ父兄ノ子弟ニ教ユル、州郡ノ学校ニ勉ムル、皆ナ是レ間接ニ自ラ衛ルナリ。

人ノ自由ヲ貴ブヤ權利ヲ失ハザランコトヲ欲スルノミ、教育ノ權利ニ於ケル先ヅ人ヲシテ全フセシメ、亦タ又自ラ全フス。則チ教育ノ干涉タル大ニ他ノ干涉ト其能毒のうどくヲ殊ニシ、曾ツテ自由ヲ妨ゲズシテ自由ヲ助ルノミ矣。

今マ閣筆かくひつノ際ニ臨ミ、更ニ一語ノ疎陳そちんシオクベキアリ、凡ソ吾儕ノ干涉ト云フ者ハ唯ダ全國ノ父兄ヲシテ必ズ子弟ヲ教育セシメ、政府ヲシテ能ク全國ノ教育ヲ督励セシメントスルノ謂ニシテ、復タ地方ノ教則ヲ掣せ肘しゆう箱束しやうすくスルノ謂ニハ非ラザルナリ。

夫ノ都鄙ヲ論ゼズ、貧富ヲ問ハズ、必ズ一定ノ課ヲ設ケ必ズ同一ノ書ヲ授ルガ若キハ、所謂膠柱守株かうしゆうしゆうノ制ノミ。必ズ扞格不勝ノ患アリテ春風時雨ノ化ナカラン、其ノ自由ヲ妨害スル鮮せんとん少ニ匪ラズト為ス、是レ吾儕ノ最モ厭忌スル所ナリ、世ノ教育家若シ干涉ヲ誤用シテ此ヲ以テ彼ニ代ヘバ、則チ足ヲ縛シテ其歩ヲ促スナリ、口ヲ掩おほフテ其弁ヲ責ルナ

リ、此レ大ナル惑ノミ。

〔東洋自由新聞〕第六号、明治一四・三・二七

再論干渉教育〔再び干渉教育を論ず〕

仏蘭西革命ノ時ノ告示中ニ云フ有リ、曰ク凡ソ國人タル者皆學術無カル可ラズト。蓋シ人ノ不学ナル其弊固ヨリ勝テ言フ可ラザル者有リ、其最モ甚キハ曰ク世ノ浮榮ヲ慕フテ自己ノ自由權ヲ放棄スル是レナリ。

古ヨリ士君子ノ身ヲ立テ道ヲ行ハント欲スル者、其初メ皆致々亢々辛ヲ嘗メ苦ヲ啖ヒ胃腎ヲ摺摧シ以テ学ヲ勤メザル莫シ、進ミテ仕途ニ入ルニ及ビテハ、軒曼ノ榮頓ニ其志氣ヲ蕩シ、是ニ於テ乎苟モ合ヒ容レララルコトヲ求メテ復タ自由ノ權有ルコト無ク、前日ノ自ラ志ザセシ所ハ拳ゲテ之ヲ風烟ニ委シ紛紜顛倒至ラザル所無ク、名壞レ行汚レテ狗鼠モ其余ヲ啗ハザルニ至ル、凡ソ此ノ如キ者ハ自ラ号シテ学ビタリト称スルモ、有識ヨリシテ之ヲ見レバ皆不学ニ座スル者ナリ。

嗚乎朝紳ノ子弟閭閻ノ少年自ラ才氣ヲ負フ者、時運ノ綱ヲ所ヲ料リ英書ヲ講ジ典籍ヲ習ヒ、遠ク万里ノ海ヲ踰ヘ学ヲ奮動ニ修メ業ヲ巴勤ニ勤メ、少ク成ル有ルニ及ビテハ志氣高ク揚リ、皆グラストーン、ガンベツターヲ以テ自ラ比シ、曰ク吾異日帰朝セバ將サニ自由ノ大義ヲ主張シ以テ我國ニ益スル有ラント。其志実ニ嘉尚ス可キ者ノ如シ、而シテ其志ヲ堅守シ、果シテ能クグラストーン、ガンベツターニ愧ヂザル者今幾人アル哉。

昔者孔子、漆雕開ニ勸メテ仕ヘシム、開辭シテ曰ク吾レ斯レヲ之レ未ダ信ズルコト能ハズ、願フニ世ノ浮榮ノ榮顯ヲ慕フテ己ノレノ志ヲ棄テ以テ自ラ奴隸ノ境ニ入ル者ハ、皆斯レヲ之レ未ダ信ズルコト能ハザルノ徒ナレバ、則チ之ヲ未ダ学バズト曰フモ豈不可ナランヤ。

然リト雖モ、茲ニ拳グル所ハ士君子ノ学ニシテ、自ラ其志ヲ敗リ其自由權ヲ棄ツル者ヲ曰フニ過ギズ、拳國ノ民皆不学ナルニ至リテハ其害更ニ

甚キ者有リ、仏蘭西人民ノ勃奈板的氏ニ於ケルヲ見ズ乎、始メ仏蘭西改革党ノ為メニ自由權ヲ恢復スルヤ、險危ニ冒犯シテ少シモ屈撓セズ、蓋シ亦勤メタリト謂フ可シ。末年ニ至ルニ及ビ、政綱紊亂シ諸党相ヒ攻メ

四隣舞ヲ伺フテ大軍境上ニ逼リ且ツ割裂セラレントス、時ニ乃チ拿破崙ナル者有リ、三軍ヲ董率シ奇ヲ出シ謀ヲ設ケ強寇ヲ摧破シ四境ヲ掃清シテ宗社ヲ將サニ滅セントスルニ救ヘリ、既ニシテ自ラ功ヲ負ミ兵權ニ藉リテ議院ヲ破壞シ自立シテ總統官ト為ル、當時仏人タル者ハ宜ク群起シテ之ヲ誅戮シ其首ヲ梟ス可キナリ、是ヲ之レ思ハズ相ヒ率ヒテ拿破崙ヲ奉戴シ其末終ニ尊ビテ以テ帝ト為シ、其命ニ趨走スルノ暇アラズシテ國人自由ノ權一挙シテ地ニ墮タリ。當時仏人ノ自由ノ權ヲ願恋スルコト彼ノ如ク其甚クシテ、猶ホ是ニ至ルニ免レザル者ハ何ゾヤ、拿破崙ノ隣敵ヲ摧陷シ威ヲ四方ニ宣ブルヲ見テ歎慕感激ノ心ニ堪ヘズ、是ヲ以テ自ラ其貴重ノ權ヲ棄テム、復タ願借スルコト無シ、故ニ曰ク、拳國人不学ニシテ世ノ浮榮ヲ慕ヒ自ラ其自由ノ權ヲ棄ルトキハ其害ニ測ル可ラザル者有リト。

此レニ由リ之ヲ考フレバ、夫ノ改革党ノ相ヒ与ニ告示ヲ作リテ必ズ國人ヲ教育スルコトヲ以テ務ト為セシハ、予メ後年ノ患害ヲ料度セシ者ノ如シ、國ヲ為ス者其レ茲ヲ鑑ミン哉。

然レバ則チ國中ノ人々ヲシテ皆学ニ就クコトヲ得セシメント欲セバ之ヲ如何シテ可ナラン、曰ク人智愚有リ、家貧富有リ、官若シ独リ父兄ノ其子弟ヲ教育スルニ任セテ学校ヲ設ケザルトキハ、何ニ由リ以テ學術ノ國ニ遍キコトヲ望マン、此レ則チ吾儕ノ前号ヲ以テ干渉教育ノ事ヲ論述セシ所以也。

然ト雖モ利害相ヒ因ルコトハ人事ニ必ズ免レザル所ナリ、故ニ官ヨリ学校ヲ置キテ全國ノ子弟ヲ教育スル所ハ、政府ノ旨趣トスル所理学ノ根拠トスル所ヨリ以テ学則ノ瑣細ニ至マデ皆当路有司ノ意ニ出デム、其弊ヤ或ハ人ヲシテ其性尚ニ隨ヒ其嗜好ニ從フテ自ラ其智ヲ斃スルコトヲ得ザ

ラシムルニ至ル、是ヲ以テ欧米諸國ノ学士往々学校ヲ非議シテ専ラ私塾ヲ主張スルハ此ガ為メナリ。

然リト雖モ、方今吾邦ノ文物寧口遽ニ欧米諸國ト比擬スルコトヲ得ン耶、自ラ為ス者要当サニ其國文物ノ運、人智ノ状如何ヲ問フベシ。夫レ欧米諸國ノ豊富ニシテ人々私ニ其子弟ヲ教育スルコトハ猶ホ頗ル行ヒ難キ者アリ。而ルヲ況ンヤ吾邦ノ民終日營々トシテ一家数口ノ飢ヲ防キテ猶ホ且ツ給セザルコトヲ懼ルム者比々皆然リ、奚ゾ暇アリテ自ラ其子弟ヲ教育セン哉、設令ヒ欧米学士教育ノ事ヲ論ズル者ヲシテ吾邦今日ノ形勢ヲ觀セシムモ亦必ズ我が言ヲ易ヘズ、江湖ノ君子以テ如何ト為ス。

〔東洋自由新聞〕明治十四・三・三十

註(1)一八四七—一九〇一年(弘化四—明治三十四)。フランス流民権思想の普及と専制政府攻撃に健筆をふるい「東洋のルソー」といわれた。(2)のびそだつこと。(3)世の中が未開で、人知の発達していないこと。(4)きままたに暮す。(5)餓死した人。(6)物を恵んで、災難にあった人を助けること。(7)近所(の人)。(8)むらざと。いなか。(9)干渉して自由に行動させない。(10)束縛して自由にさせない。箝制。(11)融通のきかないことのとえ。(12)古い習慣をそのまま守って、時勢に応じた処置のできないことのとえ。(13)かたくつかえて、動きがとれない。(14)ほんの少し。(15)はかない世俗的な栄華。(16)学問・教養・徳行のすぐれた人。(17)つとめ励む。(18)指。こねる。推。くたく。 (19)役人になるといふ進路。(20)いぬ、ねずみ。(21)身分の高い人。(22)むらに住む庶民。(23)ほめたたえる。(24)むかし。以前。(25)人生のはかないことのとえ。(26)はなばなしく出世する。(27)政治上の重要な方針。(28)くに。(29)罪のある者を殺す。(30)文化の所産。法律・学問・芸術・宗教など、文化に関するもの。(31)ひきくらべる。

一九八四年九月・教育学